

《月報》
平成 22年12月
(第48 ~ 52週)発行年月日:平成23年(2011年)1月25日
発行:滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1)全数報告の感染症(一類~五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一~四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ことになっています。
このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一~四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 22年		平成 21年 ¹⁾		感染症 類型	疾 病 名	平成 22年		平成 21年 ¹⁾			
		1~11月		12月				1~11月		12月			
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国		
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	111	0	22		
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0		
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
	ベスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2		
二類	急性灰白髄炎	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0		
	結核	227	23,350	25	2,728	256	26,932	0	0	0	0		
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	68	0	7		
三類	コレラ	0	11	0	0	1	16	0	0	0	0		
	細菌性赤痢	2	216	0	16	0	180	0	0	0	0		
	腸管出血性大腸菌感染症	66	3,985	0	125	27	3,886	0	0	0	0		
	腸チフス	0	30	0	0	0	29	0	0	0	0		
	バラチフス	1	20	0	1	0	27	0	3	0	1		
四類	E型肝炎	0	53	0	13	1	56	9	676	1	50		
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	21	0	1		
	A型肝炎	3	330	0	12	0	115	0	0	0	0		
	エキノコックス症	0	11	0	1	0	26	5	753	2	78		
	黄熱	0	0	0	0	0	0	3	192	0	28		
	オウム病	1	9	0	2	0	21	0	211	0	23		
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0		
	回帰熱	0	1	0	0	0	0	2	144	0	23		
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	2	109	1	15		
	Q熱	0	2	0	0	0	2	1	1,349	0	164		
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	1	75	0	4		
	コクシジョイデス症	0	1	0	0	0	2	0	7	0	0		
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	95	0	9		
	つつが虫病	0	204	2	192	0	465	0	0	0	113		
	デング熱	1	229	1	14	0	93	2	104	0	15		
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	5	78	0	11		
	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	1	422	0	35		
	新型インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	1	138	12,639	7		
	ザガ等感染	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

*1 感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター)

(*) : 集計期間は平成21年7月24日 ~ 平成21年8月24日、 - : 未集計

滋賀県における全数報告感染症の概要
(12月)

<結核> 25名

性別: 男性 11名、 女性 14名

類型: 患者 18名

無症状病原体保有者 7名

病型: 肺結核 12名

その他の結核 6名

無症状病原体保有者 7名

<つつが虫病> 男性 55歳、 86歳

推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染および不明で、推定感染地域は日本国内(東近江保健所管内)です。

<デング熱> 男性 27歳

推定感染経路は蚊からの感染で、推定感染地域はインドネシア(バリ島)です。

<レジオネラ症> 男性 72歳

推定感染経路はその他(スポーツジムでジャグジー利用)で、推定感染地域は日本国内です。病型は肺炎型です。

<アメーバ赤痢> 男性 33歳、 41歳

推定感染経路は経口感染および不明で、推定感染地域は日本国内、台湾または大韓民国です。病型は腸管アメーバ症です。

<創症型溶血性レンサ球菌感染症>

男性 76歳

推定感染経路は創傷感染で、推定感染地域は日本国内です。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一ヵ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したもので(患者報告数 / 定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53ヵ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。

また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

12月の概要

<インフルエンザ>

第48～52週(11/29～1/2)の定点当たり患者数は、0.09～1.53で推移していました。特に、第52週(12/27～1/2)の定点当たり患者数は1.53となり、流行開始の指標となる1.00を超えていました。また、インフルエンザウイルスについては、第48週に新型インフルエンザウイルス(A/H1N1pdm)が、第51週にインフルエンザウイルスA香港型(インフルエンザAH3型)が、今シーズンになって初めて、県内で検出されました。

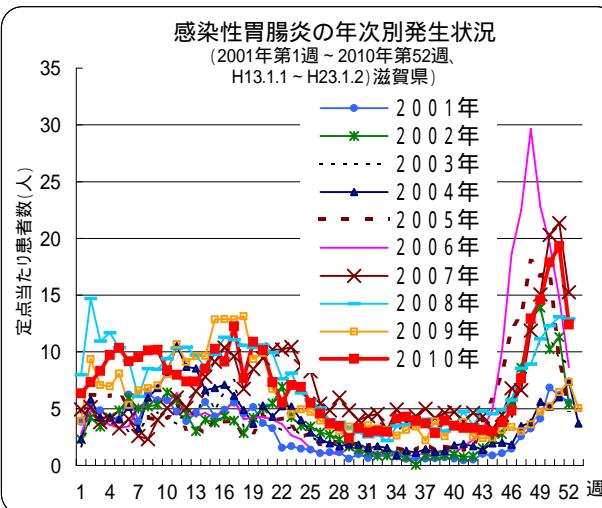
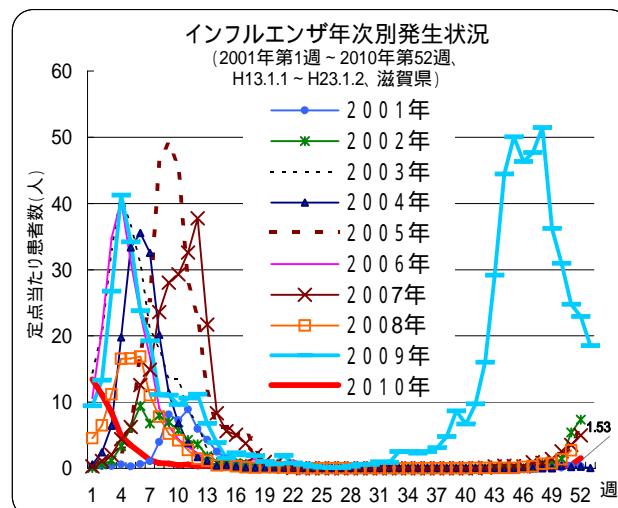
<小児科定点疾患>

ヘルパンギーナ以外の疾患で、先月より増加し、特に、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎および伝染性紅斑(リンゴ病)で急増していました。RSウイルス感染症は、草津、東近江および高島保健所管内で多くなっていました。感染性胃腸炎は、48週以降も増加傾向を示し、第51週には、県内全域に警報が発令されました。保健所管内別では、甲賀、東近江および長浜で多くなっていました。また、伝染性紅斑では、甲賀保健所管内で多くなっており、第48～52週の全期間で警報発生基準値(警報終息基準値: 定点当たり患者数1.00)を超えていました。水では、第50週(12/13～12/19)に草津、甲賀、東近江および高島保健所管内で、第52週(12/27～1/2)に甲賀保健所管内で注意報発生基準値(定点当たり患者数4.00)を超えていました。百日咳は、先月と同様、大津市保健所管内からの報告が多くなっていました(他の疾患については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より急増し、約3倍増となっていました。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患では、細菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎は先月より微減となり、マイコプラズマ肺炎は3倍増となっていました。特に、マイコプラズマ肺炎は、先月と同様に東近江保健所管内からの報告が多くなっていました。無菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

インフルエンザおよび感染性胃腸炎の発生状況

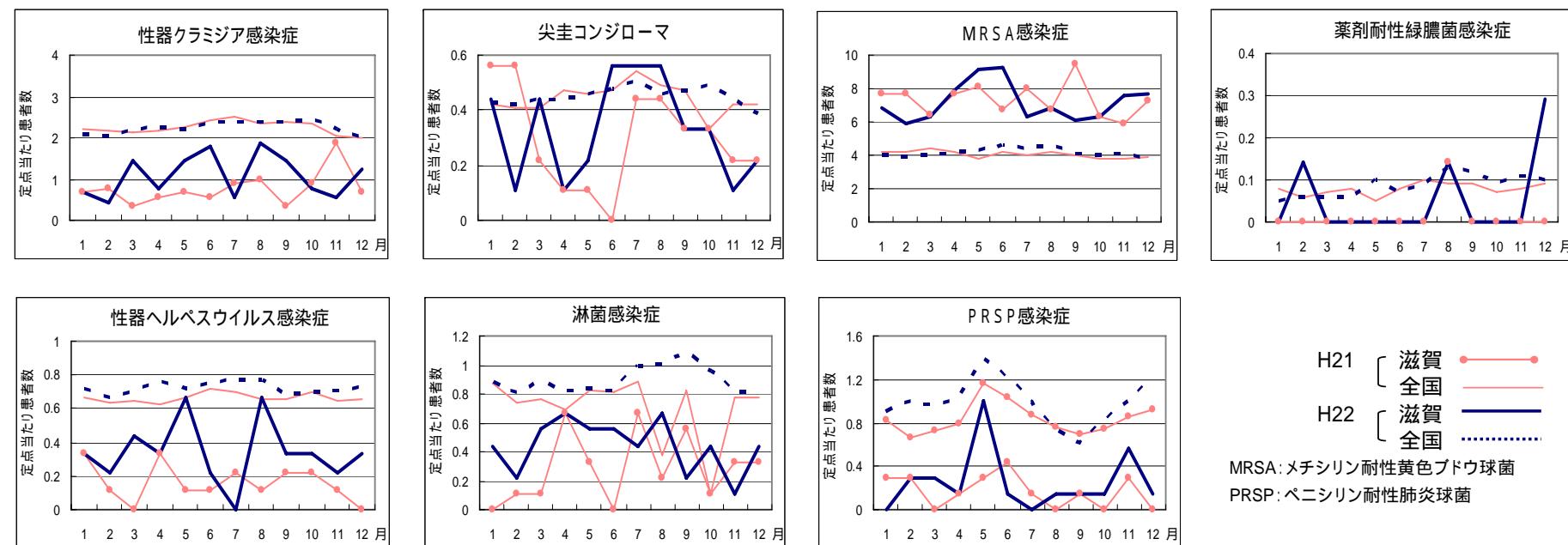


<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶連菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

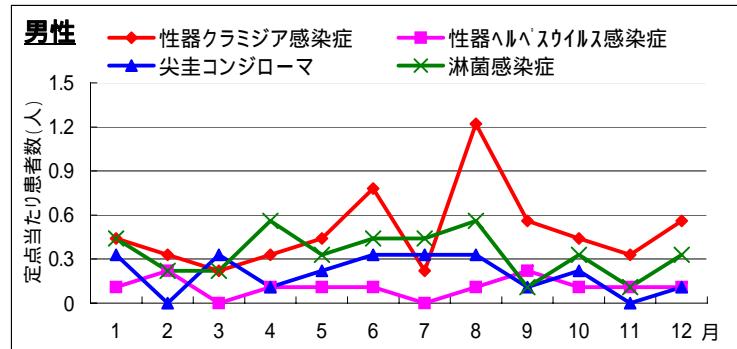
3)性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成22年12月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	罹患者数	6	4	13	7	13	16	5	17	13	7	5	11	117
	定点当たり	0.67	0.44	1.44	0.78	1.44	1.78	0.56	1.89	1.44	0.78	0.56	1.22	13.00
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患者数	3	2	4	3	6	2	0	6	3	3	2	3	37
	定点当たり	0.33	0.22	0.44	0.33	0.67	0.22	0	0.67	0.33	0.33	0.22	0.33	4.09
尖圭コンジローマ	罹患者数	4	1	4	1	2	5	5	5	3	3	1	2	36
	定点当たり	0.44	0.11	0.44	0.11	0.22	0.56	0.56	0.56	0.33	0.33	0.11	0.22	3.99
淋菌感染症	罹患者数	4	2	5	6	5	5	4	6	2	4	1	4	48
	定点当たり	0.44	0.22	0.56	0.67	0.56	0.56	0.44	0.67	0.22	0.44	0.11	0.44	5.33
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	罹患者数	48	41	44	55	64	65	44	48	43	44	53	54	603
	定点当たり	6.86	5.88	6.29	7.86	9.14	9.29	6.29	6.86	6.14	6.29	7.57	7.71	86.18
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	罹患者数	0	2	2	1	7	1	0	1	1	1	4	1	21
	定点当たり	0	0.29	0.29	0.14	1.00	0.14	0	0.14	0.14	0.14	0.57	0.14	2.99
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患者数	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	4
	定点当たり	0	0.14	0	0	0	0	0	0.14	0	0	0	0.29	0.57

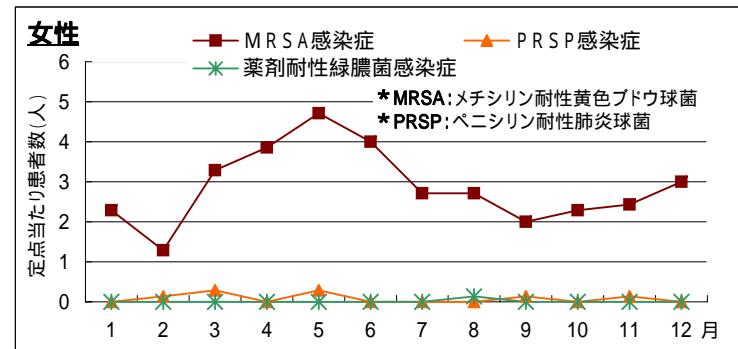
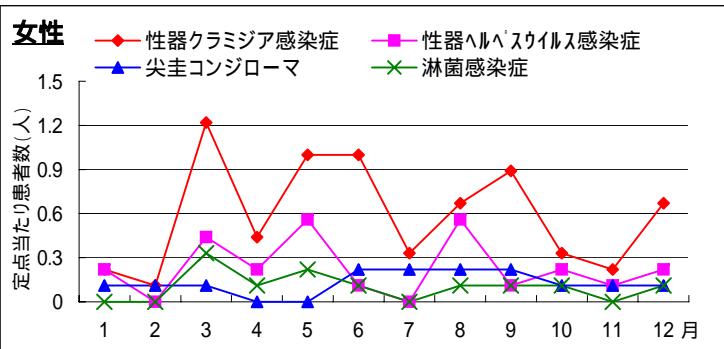
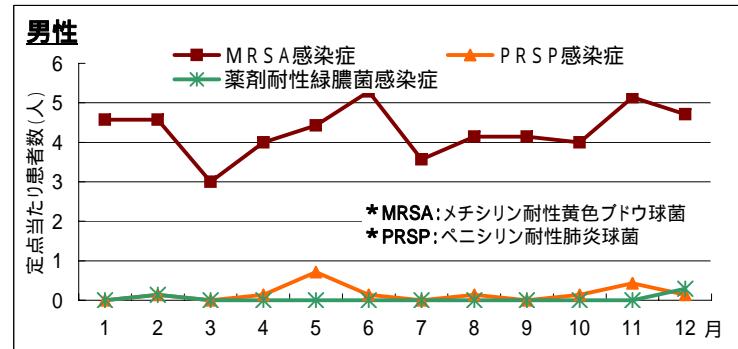


性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、PRSP感染症（ペニシリン耐性肺炎球菌感染症）以外の全ての疾患で増加しています。特に、性器クラミジア感染症では2倍増、淋菌感染症では4倍増となっています。

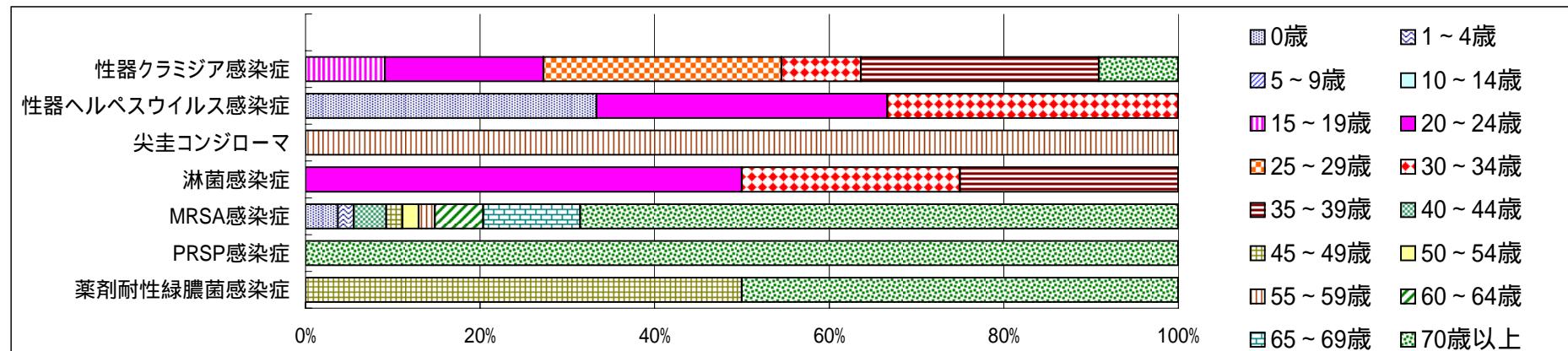
性感染症定点における疾患別発生状況 (H22.12)



基幹定点における疾患別発生状況 (H22.12)



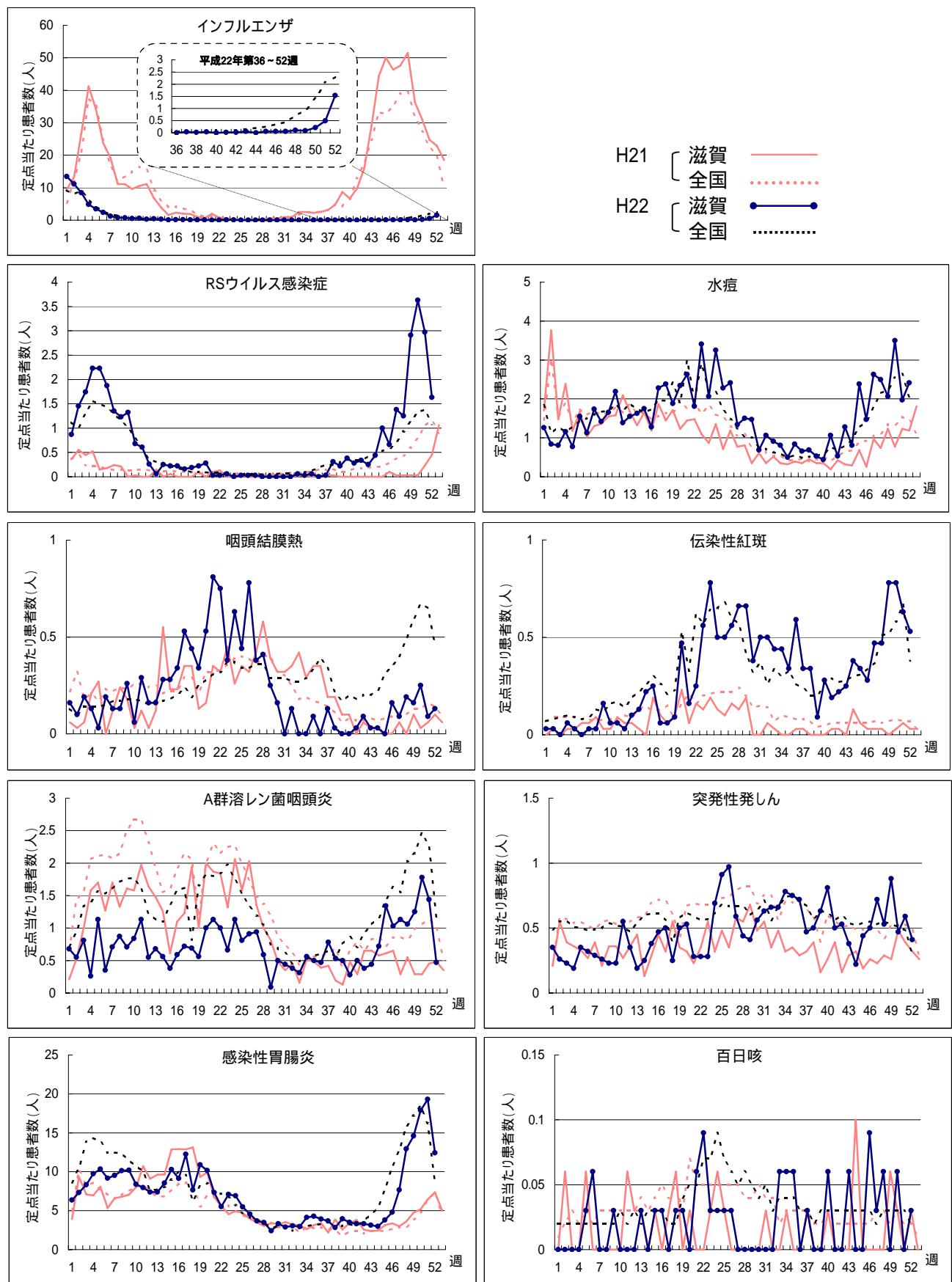
疾患別・年齢別発生状況 (H22.12)



性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。性器クラミジア感染症および淋菌感染症では、男女ともに増加しているですが、特に性器クラミジア感染症では女性で、淋菌感染症では男性で大幅に増加していました。

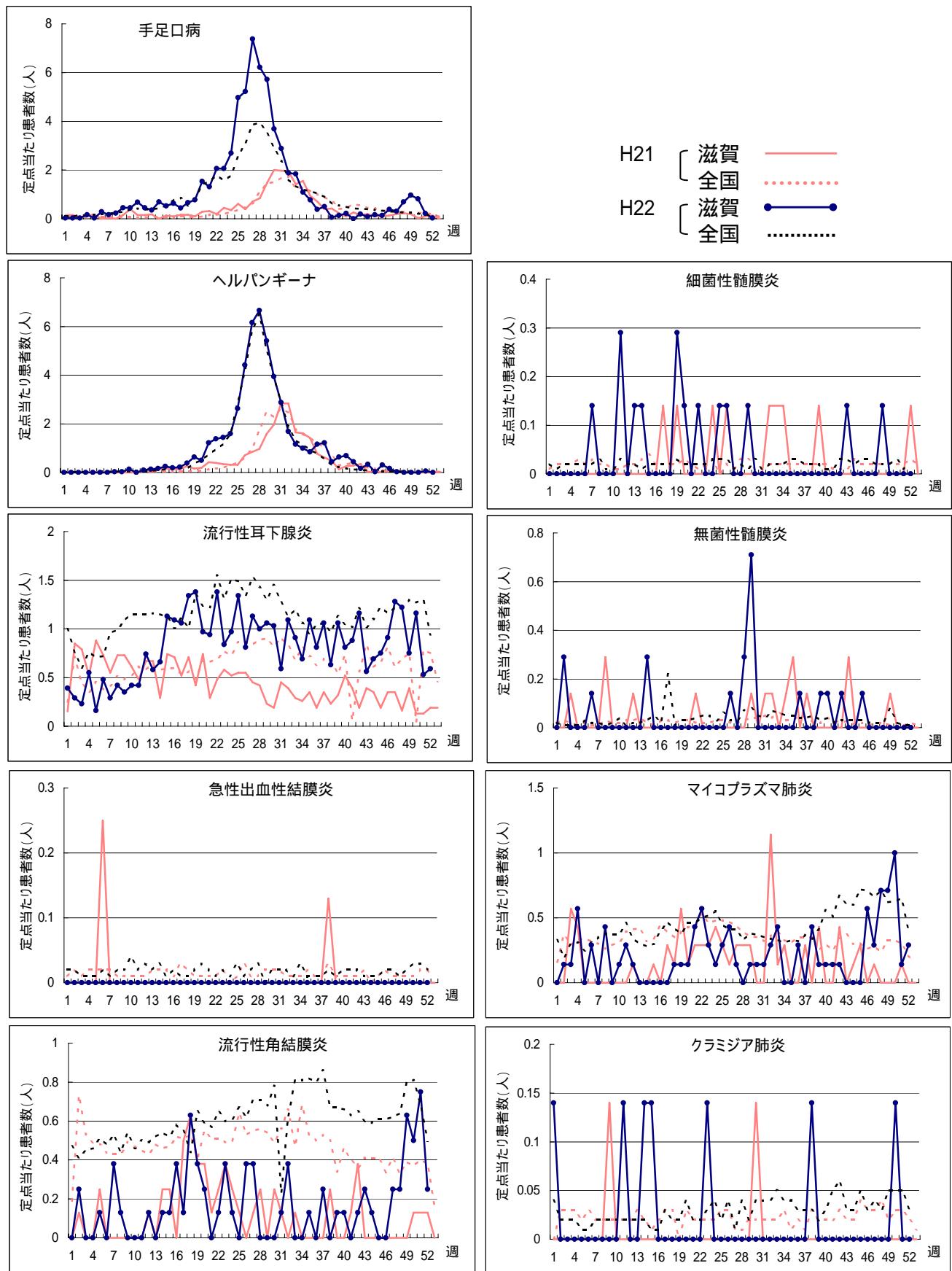
また、各疾患の年齢別発生状況は下記グラフのとおりです。性器クラミジア感染症では、15～19歳からの報告がありました。また、性感染症の4疾患については、男性では20～34歳で多く発生していました。

疾病別定点当たり患者数(平成22年第1～52週、H22.1.4～H23.1.2)



戻る

疾病別定点当たり患者数(平成22年第1～52週、H22.1.4～H23.1.2)



戻る